秋の叙勲

本町の3人が栄えある受章

11月3日付けの秋の叙勲において、本町の3人が多大な功績を認められ受章されました。皆さんの長年の功労を経歴とともに紹介します。

瑞宝単光章

地域ぐるみの火災予防を推進

佐々木　清通（すみち）さん
（荒川・79歳）
（元山田町消防団副団長）

佐々木さんは、昭和35年に町消防第13分団に入団し、昭和58年に同分団の分団長、平成17年からは町消防団副団長として、平成26年に退団されるまでの54年に渡り、地域において消防活動に尽力されました。

昭和53年に、荒川地区で発生した林野火災では、水不足と強風注意報が発令されるほどの悪条件の中でも懸命に消火活動を展開。小型動力ポンプを使用した中継送水を提案するなど積極的に活動しました。また、日頃から地域を巡回し、火の用心の徹底と住宅用火災警報器の設置を呼び掛け、地域ぐるみの火災予防を推進しました。

受章については、「先輩方が受章された章を自分もいただくことができ、身に余る気持ちで一杯です」と喜びをかみしめていました。

瑞宝単光章

海洋観測や漁業取締業務で水産振興に貢献

港　繁樹（しげき）さん
（船越・62歳）
（元県水産技術センター岩手丸船長）

港さんは、昭和46年に県水産技術センターの甲板員として奉職し、平成25年に岩手丸船長として退職されるまでの43年間、本県の水産振興に貢献されました。

この間、漁業指導調査船や漁業取締船に乗り組み、海洋観測や取締業務に従事。特に岩手丸船長の時に発生した東日本大震災では、発災日から海上で捜索活動を行いました。港さんは「これまでいろんな時化を乗り越えてきたが、あの津波だけは別格。マストを越えるような大波でしたが、乗組員と船が無事だったことがなによりです」と当時を振り返ります。

受章については「私を教育してくれた先輩方、一緒に働いてくれた船の仲間のおかげ。支えていただいた皆さんに感謝申し上げます」とお礼の気持ちを話していました。

瑞宝単光章

記録的な豪雨災害の被害防ぐ

昆　實（みのる）さん
（船越・72歳）
（元山田町消防団本部分団長）

昆さんは、昭和42年に町消防第４分団に入団し、平成26年に本部の分団長として退団されるまでの47年に渡り、地域において消防活動に尽力されました。

昭和61年に発生した観測史上最高雨量を記録した豪雨災害では、氾濫の危険がある場所をいち早く発見。水防作業と地域住民への避難の呼びかけを積極的に実施し、河川氾濫による被害を最小限に抑えました。

入団当初を「風が強い夜には、自分で作った”てんぎ”（拍子木）をたたきながら地域を巡回し、煙突がはずれていないかなどを確認していました」と振り返ります。

受章については、「元気にこのような章をいただけたのは地域の皆さまの支援、家族の協力のおかげ。今後も皆さまの支援を支えに精進してまいります」と感謝の気持ちを話してくれました。

県教育表彰に佐藤さんと上澤さん

10月21日に県教育委員会が発表した2015年度の教育表彰において、本町の佐藤幸男さん（85）＝中央町＝と上澤富士夫さん（62）＝大沢＝が表彰されました。

佐藤さんは34年に渡り町ソフトテニス協会の会長を務めた功績により、社会体育分野で受賞。「大変ありがたい。町教育委員会や町体育協会の支援でここまでこれました。今後も、生涯スポーツとしてのソフトテニスの良さを広めていきたいです。目標は95歳まで現役プレーヤーでいること！」と笑顔を見せていました。

上澤さんは、教育委員を10年間務めたことにより、教育行政分野で表彰されました。「受賞できたのは皆さんのおかげです。いつも登下校で通る子どもたちの様子を見て、心身の健康状態を確認しています。これまでの委員の経験を生かし、今後も子どもたちが元気で明るくいられるよう精進していきます」と喜びを話してくれました。

上澤富士夫さん

佐藤幸男さん

第63回統計グラフ全国コンクール
第59回県統計グラフコンクール

轟木小・中山君が全国佳作
山田南小３児童が県で特選

中山騰陽君

左から大久保さん、佐々木さん、吉田さん

第63回統計グラフ全国コンクールの第１部（小学１・２年生）において、轟木小２年の中山騰陽君の作品「ぼくもわたしも　やさい大すき」が佳作に選ばれました。中山君は「いつもおばあちゃんの野菜作りを手伝っているので、みんなどんな野菜が好きなのか知りたくて題材にしました」と、応募のきっかけを話します。「去年県で特選だったので、今回全国で入賞できてうれしい。来年も挑戦したい」と感想を話す中山君の顔はうれしさとやる気に満ちていました。

第59回県統計グラフコンクールでは、第３部（小学５・６年生）で、山田南小学校６年生の大久保花連さん、佐々木海音さん、吉田彗さんの３人が制作した「復興の今」が特選。普段から仲良しという３人は「アンケートの取り直しなど大変なことも多かったけど、特選になって良かった」と声を揃えます。作品の中にある「自分たちに出来る復興」を３人に伺うと、「３人とも祭りに参加しているので、それで地域を元気にしたい。山田のために出来ることは何でもしたいです」と頼もしい答えが返ってきました。

第32回岩手県海の子絵画展

大沢小の藤田君が最優秀賞

第32回岩手県海の子絵画展（県内各漁業協同組合、岩手県信用漁業協同組合連合会が主催）で、大沢小５年の藤田悠雅君の作品「おいしいウニを食べてくれ」が最優秀賞である岩手日報社賞に輝きました。

普段から絵を描くのが好きという藤田君は、今回の絵の出来について「モデルにした漁師さんと自分の絵を見比べたら、かなり似ていたので上手く描けたと思います」と満足気な様子。受賞の感想を伺うと「山田で作業をする漁師さんの姿を伝えるために大きく描きました。思い通りに伝えられてとにかくうれしいです」と満面の笑みを浮かべながら話してくれました。

喜びの表情を見せる藤田君と受賞作品（ＪＦマリンバンクいわてより画像提供）